

平成 29 年度第 2 回常磐公園の緑を考える集い 開催結果

日時 : 平成 29 年 11 月 25 日 (土) 10:00~12:30
会場 : 旭川市役所第三庁舎 2 階会議室
出席者 : 市内在住の市民 4 名
旭川市土木部公園みどり課 4 名
有識者 (常磐公園自然環境調査ワークショップ参加者) 2 名
配付資料 : 説明資料 (追加分)

備 考 : 開催内容の一つである「市民協働による維持管理」については時間の都合により十分な議論ができませんでした。次回 (平成 30 年 2 月頃開催予定) も引き続き議論することを予定しています。

○開催内容

- 1 開会
- 2 オリエンテーション
- 3 夏期自然環境調査結果報告および結果総括
- 4 自然更新ゾーンの改良について
- 5 ブッシュについて
- 6 緩傾斜化区域について
- 7 市民協働による維持管理について
- 8 閉会

自然環境調査について

- 池の結氷時期が早まったりしているなど、環境は変化していく。調査は引き続き行っていくことが大事だと思う。できることを検討したい。
- 以前より観測されているオオハンゴンソウ、今回新たに観測されたツチガエル・アズマヒキガエルは（卵の状態であれば）外来種のなかでも比較的対策しやすいので駆除を検討すべき。特にカエルは石狩川の下流側も調査すべき。
- 常磐公園だけでなく、他の公園も調査すると、比較できて常磐公園の特徴が見えてくるのでは。
- この調査結果は詳細でよくできていると思う。問題はこの結果を受け、未来へどう活かすかである。この結果を礎とし市民協働でもできる維持管理についての体制を確立して環境を守っていきたい。

その他

- （常磐公園の現状から）より活性化させるためには、周辺住民の力が大きく関わってくると思う。ハード面のみならずソフト面の活性化を街ぐるみで考えていくべき。
- 将来どのような公園にしたいのか明確に設定するとよいのでは。
- 緩傾斜化区域にあるスロープを自転車がスピードを上げておりてくるので危険。舗装面に注意喚起する文字を書くなど対策を検討して欲しい。

常磐公園の現況について

- 自然更新ゾーンについて、提案通り現状を見守っていくことでよいと思う。
- ブッシュゾーンについては提案内容もわかるが、下草の除去など生態系のコントロールは完全にはできないがやれるところはやるべき。
- 新聞記事にもなったが、常磐公園内には旭川の虫であるカンタンがいない。カンタンの食物であるオオヨモギを植えてみるのもおもしろい。
- 試験期間ということもあるが、やはり範囲が狭い。林部を含めた形で範囲を拡大した方がよいと思う。
- 範囲内は人が侵入しないよう境目となるものが必要だと思う。（人工物ではないもの）
- 緩傾斜化区域について、提案通り現状を見守っていくことでよいと思う。

市民協働による維持管理について

- 樹木更新計画について、更新は在来種が基本となると思われるが、昨今常磐公園には外国人観光客が増加している。外国人観光客曰く観光先に在来種（日本にとっては外来種）があると嬉しいとのこと。生態系保全もあるが常磐公園の活性化の観点からバランスのよい更新計画を検討したい。